平成30年度 第2回八代市農業集落排水処理施設事業及び
浄化槽市町村整備推進事業審議会 会議録

【日時】平成30年9月21日（金）午後2時00分～午後4時00分
【場所】東陽支所2階会議室
【出席者】委員14名
【公開状況】公開
【議題】農集、浄化槽使用料について

【第2回審議会】

- ・議事 1. 諮問事項について
2. 次期開催日程について

【審議内容】

- ・諮問事項の説明及び質疑
- ・次回、説明事項
- ・次回の開催日程 第2回9月27日（木）午後2時00分～
東陽支所2階会議室

(議事録)

会長：皆さん、こんにちは。ただいまから平成30年度第2回八代市農業集落排水処理施設事業及び浄化槽市町村整備推進事業審議会を開催致します。まずは、事務局より、会の成立について報告をお願いします。

事務局：皆様こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日は審議会委員15名中14名の出席でございますので、八代市農業集落排水処理施設事業審議会及び浄化槽市町村整備推進事業審議会条例第6条第2項の規定により、本日の審議会が成立したことをご報告いたします。

会長：はい。ありがとうございました。それでは早速議事に入りたいと思います。今回も審議がスムーズに進みますよう、ご協力をよろしくをお願いします。まずは、前回の審議会です。質問の回答を事務局からご報告をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

事務局：(説明概要)

- 資料①－1 東陽地区浄化槽使用料対象経費及び使用料状況
- 資料①－2 泉地区浄化槽使用料対象経費及び使用料状況
- 資料②－1～3 県下市町村浄化槽使用料比較表

- 資料②－ 4 県下市町村農業集落排水使用料比較表
資料③ 公共下水道・農集・浄化槽料金比較表
資料④－ 1～ 2 平成 37 年度に使用料回収率を 100%にする試算

会長：はい。ありがとうございました。今の説明をお聞きになりまして、何か質問等ございましたらお願い致します。

会長：では、簡単な質問から。浄化槽で世帯員数が 0 というのはどういう意味ですか、これは、住んでいないということですか。

事務局：はい。普段は住んでいらっしゃいませんが、たまに帰ってきては家の掃除をされたりとか、1 人暮らしの方が施設に入って、たまに帰ってこられたときなど、普段は 0 人を設けています。

会長：住民票の有無で 0 人ということはないんですか。

事務局：基本的には住民異動がきちんとなされていれば、それに基づき料金を計算しますが、中には住民票を移さずに、例えば、大学進学や入院された場合など、届け出をして頂かないと、変更とはなりません。

委員：今回の説明資料の中で、合併浄化槽について、八代市は人槽と世帯員数を合算したところで料金算定されている。その他に、人槽で設定してあるところがありますが、八代市の場合には前回の審議会までは人槽での料金設定でしたが、前回で変わったということですね。

事務局：はい。そうです。

委員：前回の審議会が変わったということですが、今回も世帯人数別で諮問されてる訳ですが、例えば 5 人槽の場合、維持管理費が 5, 367 円かかるが、0 人世帯は 3, 709 円、1 人が 4, 140 円と極端に維持費よりも安いんですが、理由は。

事務局：前回、諮問を人槽制で行っており、浄化槽使用料全体で設定した場合、人槽人数制にした時に、少数世帯の負担が大きすぎるということで差をつけられたということです。

委員：差が大きすぎるとはどういう意味ですか。例えば、高齢者で年金世帯が多いとか、そういう配慮がされているのかを聞いている。

事務局：4 年前の審議会でも、低人数の世帯は料金を配慮すべきという中で段階的に設定されたと聞いています。

委員：配慮すべき理由というのは、高齢者世帯で年金世帯が多いので配慮していると思うが、ただ配慮している理由を聞いている。

事務局：はっきりと把握はしていないが、前回の審議会の議論でその方向性は出来たということとは違っていません。

委員：今回は前回の結果をもとに改定されるということですが、例えば5人槽で月間維持管理費が5,367円ですね。人槽制なら全員からこれだけ集めればいい訳だけど、不足するから改定するそうだが、4人世帯以上は維持管理費以上の金額を満たしている世帯は、改定率を変えても良いと思うが。私の意見です。

事務局：改定率を変えても良いということは、月間の維持管理費を超えている世帯については改定する必要はないんじゃないかということですか。

委員：はい。そういうことです。

事務局：今の料金体系で、人槽人数制で諮問している訳なんですけど、例えば、今のままで良いんじゃないかということですか。それとも、これに近づけてということですか。

委員：原則としては5,367円ですが、せめて現在の料金を上げる必要はないということです。

事務局：ということは、4人世帯以下で負担をするということですか。

委員：そうですね。5,367円に近づくように徐々に改定していくとか、維持管理費以上に負担している世帯は改定しなくても良いと思います。

委員：私は逆の考え方で、使用水量や汚濁負荷が多いところが負担するべきだと思います。少数世帯の浄化槽は水質的にも良くて負荷も少ないはずなんです。環境への負荷を考えたときに、人数が多いと排水量が多く汚濁負荷量が多いはずなんです。そこに対する使用者負担は必要だと思います。

委員：例えば、7人槽で2人世帯の場合のほうが委託業者の仕事量が多いんですよ。バクテリアが足りないから汚泥を入れて管理しないとイケない。

委員：それは、種を補充してあげないとイケないということですね。

委員：はい。

委員：それは、維持するためには必要なことで水質的に負荷は発生しないですよ。

委員：直営でした場合は別ですが、委託している訳ですよ。委託料算定の中ではそういうことです。

委員：最終的に、水質を基準以下で守るのが大原則なんで、空ばっ気している、要はバクテリアが自己消化しているだけなので、水質的に問題はない。機能を維持しないといけないので仕方ないと思う。

会長：まとめますと、一つ目の意見は、「維持管理費の5,367円を超えているから改定する必要はない。」二つ目の意見は、「人数が多いところが負荷を環境に与えているので、料金を上げたほうが良い。」それと、もう一つ。先ほど一つ目の意見で、前回の審議会で上がった意見として、1人世帯は年金生活者が多いということで、「世帯人数の少ないところには料金を低くして、多いところはそれなりに上げましょう。」と。0人から6人世帯人員まで段階的に上がっていますが、3人世帯を平均な値にしている。前回の資料③で5ページを見てください。5人槽の場合3人世帯で4,650円なんですよ。6ページを事業所等の料金改定案ですが、事業所は人槽で料金を決定しています。5人槽の場合は、4,650円なんです。3人世帯に相当するということが基本になってるんです。これよりも人数が減ったり増えたりすると、2人世帯が4,250円、1人世帯で3,850円、0人で3,450円と400円ずつ下がっていく。逆に4人世帯、5人世帯になるに従って400円ずつ上げていると、それだけ環境に負荷を与えているという考え方もあるだろうし、大人数のところは経済的に余裕があるということではなかろうか。これはあくまでも推測です。前回の審議会では「世帯人数の少ないところは様々な経済的な理由から低くしましょう。」という意見だったので、そのような改定をしたところですよ。

委員：4ページの菊池市の場合は、人槽に関係なく、2,160円になり、泉・東陽の場合、5人槽0人で3,450円、6人槽で3,540円、7人槽で3,630円、8人槽で3,900円、10人槽で4,270円、これが基本料金で菊池市の基本料金プラス世帯割という考え方に相当すると思います。世帯員ごとに400円という考え方で良かったんですよ。

会長：そういう料金体系になってますね。

委員：人槽ごとに基本料金が傾いてて、菊池市の場合は統一した基本料金だと、世帯割は400円に対して菊池市の場合は540円ということですが、他も600円、700円と、世帯割の金額一番低い気がします。どう思いますか。

会長：これについては、詳しいことは分かりませんが、八代市は元々基本料金が低い、菊池市よりも高い訳です。今回は3人世帯4,650円を中心にして、今日の資料の5人槽の場合、5,367円×14世帯で全体の金額が出て、この金額にならないといけない訳です。おそらく、今回は3人世帯を中心に400円というのがスッキリした値だったんだろうと思います。現在は3人世帯よりも2人、1人世帯が多いですね。だから料金を下げると足りなくなりますよね。1人世帯、2人世帯が多い訳ですから。今回は市としてはそこは考えずに人槽人数制でつじつまが合ってるから、これに一律7.5%をかけて料金を設定しているんだろうと思います。

委員：ベースとなる金額が人槽で若干傾いています。しかし人数割が他と比べて緩いのが見て取れるんですが。

会長：それについては、議論はしていません。3人の料金に全体の基数をかけた金額とバラバラの段階の金額にそれぞれの基数をかけた金額が概ね一致させる必要がある。前回の審議会でも「人数が少ないところは料金を低く設定しましょう。」というのが最終的な結論だったと思います。

委員：世帯数の少ないところを安くするのは異議ありませんが、維持管理費以上に払っているのに、また改定して上げるのは、説明資料②の基本原則は受益者負担の原則と独立採算の原則ですが、独立採算の原則で突っ走っているように感じられるのです。それと資料③で事業所は5人槽から60人槽までありますが、人槽別に事業所がいくつあるかわかりますか。

事務局：個別ですか。手元の資料では分かりません。

委員：改定したいというのに資料がないんですか。それと、事業所も管理委託されているわけでしょ。5人槽の場合も管理費よりも料金が安く設定されている訳ですね。60人槽までいくらになるのか。もしかして管理費よりも安くなっているんじゃないか。

事務局：それも含めて次回資料を提出してよろしいでしょうか。

委員：はい。

会長：事業所等が人数をかける料金設定ができるかどうか分からなかったのも、事業所に関しては3人世帯と同じ金額になっている訳です。資料の1ページで、東陽の基数が147基、泉が237基で合計384基になり、合計が406基となっておるため、事業所は22基ってのは分かるんですが、料金体系を次回に示していただきたい。

委員：事業所も一般家庭も一緒なんですね。合計で持っていないといけないんですね。会

長のお話を聞くと事業所は安めかなって思いますね。

委員：料金算定の基礎は、維持費と事務費と法定検査料、これが料金設定の基本となっているんですね。事業所が基本よりも安いのが意味が分からない。一般家庭の5人槽と同じ清掃とかされているんですよね。実際必要な経費より安いので、他の槽もずいぶん安いと思いますけどね。

委員：この事業所というのはほとんど泉。東陽は河俣小学校ぐらい。

委員：閉鎖した学校はどうしているのか。

事務局：点検自体はしています。

委員：料金は取ってるということですね。

事務局：はい。

委員：特別会計だから一般会計から使用料は出しているということですか。

委員：学校の費用がありますよね。教育委員会から、各学校の予算があるから。

会長：1つだけ言いたいのは、今回は月額5,367円ですが、平成35年にはそれ以上になるのか聞きたい。今日もらった資料の10ページで2,900万円位になるんですか。

事務局：積み上げていくとそうなります。

会長：改定していない場合は2,500万円程度集まるわけですね。これで86%ですね。要するに使用料対象経費としては最高でも2,900万円前後ということですね。

事務局：そうですね。

会長：維持管理費は今のまま変わらないんですかね。

事務局：今のところわかりません。

委員：何年ごとの契約ですか。

事務局：毎年です。

委員：委託料は上下することはあるんですか。

事務局：現状では、ほとんどありません。将来どのくらいの変化があるかはわからないので、試算は現状で行っています。維持管理費が上がっていくと使用料も上げていかないといけないので、試算がしにくい部分はありました。

委員：26年度からは変わっていないのか。

事務局：ほとんど変わっていません。

副会長：競争相手を連れてこないといけない。

事務局：現状では、東陽・泉地区を管理しているのは1社しかおらず、競争相手がいないのが現状です。

委員：業者さんも五家荘まで行かないといけないので大変だ。料金は安くなることはない。

委員：件数は減ってきてますよね。空家が増えてきている。

事務局：そうですね。料金を上げても、人口減少を見込んで右肩下がりで4年間下がった形で、同じように維持管理費も必要なくなるという見込みで試算しています。

会長：考え方が2つあって、100%超えれば上げる必要はないという考え方と、少人数は経済的に厳しいだろうということを考慮して、料金を右肩上がりにしたほうが良いだろうという意見がありますが、審議会ですのでどちらかに決めないと。

委員：どちらかではないです。7.5%自体を変えたらということでしたから、下は5%上は8%みたいな。事務局の意見の3通り。

会長：具体例が無いでしょう。

委員：算定根拠が必要と思うんですよ。私は100%超えているから上げる必要はないということですよ。

副会長：いずれにしても、二者択一、公正の原則にのっとって解決していかないといけない。

委員：排水量の汚濁負荷は2次曲線的に上がっていく。要は今の400円以上にもっと上げ

でも良いというのが根拠です。使用料と管理費の差を金額で考えるとそうだが、汚濁負荷で考えると5人槽で6人以上の場合は実際の負荷は2次曲線的に上がります。やはり、帳尻が合ってるから払わなくていいという考え方は分かりますが、受益者負担で排出したものが負担するべきと思うので、水質で考えると、もっと負担しないといけない。

委員：負荷、負荷とおっしゃるが、それを抑えるための経費はどこからか出ているのですか。それを浄化槽設置者が抑えるための経費を負担しろとおっしゃるのでしょうか。

委員：負荷が低い状態で活性汚泥により処理された排水は、川の水と変わらない水質が出ているかもしれないので負荷としてはものすごく低いんですよ。

委員：負荷が高いから大人数は負担しないといけないとおっしゃるが、その負荷を抑えるために行政から何か金が出ているんですか。環境税的に高いところが払うとおっしゃるように聞こえる。

委員：そうですね。汚濁負荷が高いところは当然だと思います。出口の水質が違うからですよ。

委員：実際に必要な経費は追加資料で出された経費でしょう。負荷を抑える経費は数字的に分かれば納得します。

委員：そのとおりなんです。金額だけが明らかになってるんで。

委員：水質とおっしゃるけど、業者に委託して河川に流して良い水質で管理しているんですよ。流してはいけない水質なら考えるけど。

委員：浄化槽の維持管理の基準で水は出されている。2人世帯なら川の水と同じ水質で出されているかもしれない。負荷が低いんじゃないですかということ。

委員：確実な数字が分かるなら示してほしい。

会長：おそらく確実な数字は分からないと思います。委員さんの言ってるのは考え方なんです。考え方であって具体的な数字が出ている訳ではない。現実には人槽で維持費・清掃費を払っている。それを前回の審議会は、「世帯数が少ないところには経済的に大変だろうから傾斜をつけましょう。」ということになったのです。水質負荷のこともあるが、主には「世帯員数が少ないところには負担が大きいから安くしましょう。」という考え方で審議会の意見がまとまった訳です。具体的に水質で料金を設定するのは不可能だと思います。どのくらい汚水を出しているか、メータが付いていないので現実には不可能だと思います。現時点で気持

ちとしては世帯員数の少ないところに厚く保護するかということをお前は賛同してくれたので、今の料金体系になった訳です。そこを今回の委員さんはどう考えていらっしゃるかで意見はまとまると思います。意見を言っていない方は思っていることを言って頂いたほうが審議会の意見はもっと広くなると思いますのでよろしくお願ひします。今、3時5分ですので、あと2～3人意見を言って頂けませんか。

委員：大人数にもう少し負担をとという考え方ならば、菊池市が540円であって、400円じゃなくて500円とか上げたら、幅が7.0%とか6.5%とかになるのかとは思いましたけど、基本的には私は一律のほうが分かりやすいと思います。世帯割の400円がどうなんだらうと。

会長：分かりましたが、3人世帯を中心にするのか、0人世帯をスタートにするかで料金は大きく変わるんです。例えば0人世帯が2,000円で1人増えるごとに500円ずつ賦課する考え方もあるれば、3人世帯を中心に400円ずつ上げたり下げたりすると、どこを基準にするかということが大きく関係してくる。八代市は3人世帯を基準にしている。前回は3人世帯が多かったんだらうと思います。正確じゃないけど。

副会長：もう一回改めて基本的な考えを持ってもらう。先ほど委員さんが受益者負担ではなく独立採算のみではないかということ。受益者を考慮していないじゃないか。事務局、もう一度基本的なことを皆さんに言ってほしい。どういうことで料金改定をしますと、それで皆さんお願ひしますと、じゃないと、ごちゃごちゃ数字ばかり言っても分からない。基本的なことを簡単に言ってほしい。

事務局：副会長からご提案がありましたので、個人的な考え方が入ってしまうかもしれませんが、人口が密集していれば集合処理ができますので農業集落排水処理施設というのが出来ています。家屋が点在している区域はそれが出来ませんので、その代替として市が設置する浄化槽を個別に整備して処理しているのが市町村設置型浄化槽推進事業となります。個々の浄化槽ごとに経費と料金を考えてしまいますと、浄化槽の大きさやその維持管理経費が判断材料として考えないといけなくなります。この事業の料金体系を考えた場合に、すべての浄化槽の維持管理に要する経費をすべての使用者に公平に負担して頂くというのが大前提としてあると思います。個別の維持管理費を議論するのではなくて、総額的な維持管理費を議論して頂ければ、料金の改定の案をご審議頂けると個人的に思っています。

副会長：上げざるを得ないと言わないと。

事務局：そうですね。100%に達していませんので、皆さんに公平に負担して頂いて料金を改定させて頂きたいと考えています。

委員：みんなで負担してほしいということだが、それならば、人槽区分を撤廃したほうが良いのではないか。

事務局：個人的にはそう思いますが、料金改定の出発は人槽から始まっているので。

委員：経費から料金を算定したから、人槽区分が残っている訳でしょう。

事務局：そこは、今回の審議会で議論して頂いて、別の料金体系が良いのではないかとのご意見を答申頂ければ私は良いと思います。それを議論するのがこの審議会だと思っています。

委員：前回か前々回の審議会で、人槽をやめて人数にしなかったのか言ったことがあります。そうすれば良かったんだけど、農集と浄化槽は形が違うし、維持管理が違うということで別れた。それと鏡・千丁の個人型浄化槽は個別なので維持管理が高いという話もあった。なのでバラバラなんです。根本的に。基準を八代市が決めないとダメだということ。泉の浄化槽は東陽より原価が高かったんです。そこで揉めたんです。それを同じ八代だからということで一律にした。ならば農集と浄化槽を一律に出来ないかという話もあった。高いはずです。鏡に比べたら五家荘まで行かないといけないし。その差額が出ている。

委員：使用料比較表の中で、基本料金プラス世帯割の考え方がオーソドックスで、そういう考えに合わせたらどのくらいになるんですかね。トータルの金額は分かりますけど。

会長：今新たな考え方が出ました。もう人槽はいいと、人数ごとに料金を設定したらどうかという意見が出たと思います。これでよろしいですか。

委員：そうなれば、農集と同じ考えになってしまい、元に戻さないといけない。

会長：ただ前回は人槽ごとに清掃や維持費が違うから、人槽ごとに勾配をつけるように答申したんです。今回は、人数で出す負荷は同じじゃないかという考え方と少ない人数はそれなりに安くしようと、人槽は取り払って人数だけで行くと。それで皆さんが納得して頂ければ、それなりの料金体系を弾いていただきます。

委員：この考え方は7人槽は良いと思いますが、5人槽のところは納得するのか。

委員：人数制にすると、基本料金は高くなりますね。

会長：分かりません。

委員：5人槽と7人槽が同じ金額なら問題ないが、金額が違うじゃないですか。だから前回の設定になったんです。

会長：0人を基本料金にして、1ずつ増えればどういう風な料金体系になるか。今回の計画として、平成35年か37年に使用料対象経費を100%に持っていくためには、34年度にもう1回上げないといけない。今回は料金改定を93%ということで計算して頂くということでよろしいですか。そうすると、人数の多いところは料金は上がりますよ。

副会長：また同じ。嫌な議論をするな。

会長：変な意見を言いますが、先ほどの事務局の話で、受益者負担がどこに入るのか分からんということです。受益者負担というのは公設の合併浄化槽は私設の合併浄化槽に比べて料金は多少安くなっているんで、受益者に還元出来ているんだろうと思いますけど。人槽によって料金体系を変えるというのは本当に大変です。事務局に人槽を取り払って人数ごとで料金を設定すると93%になりますと言って頂けるとスッキリするかな。それで皆さんよろしいですか。

委員：私は最初に言った意見はちょっと反対させて頂きたいと思います。

会長：委員さんの意見をお願いします。

委員：維持管理費を満たしているのに、その上に7.5%改定する必要はないと思います。

会長：そうすると少ない家族は。

委員：年金世帯を配慮するのであれば、福祉の予算で補填するべきだと思います。

会長：現実的にそういうのがあるのか。

事務局：ありません。

委員：意見としてですが、全体が100%になるように5人槽で5,362円以上に払っているところも同じように上げないといけないのが納得いかない。

副会長：受益者負担じゃなくて、利用者負担の原則になっている。

事務局：浄化槽に限っては回収率現在86%が現状です。今後2回で100%に持っていきこうという議論の中でのご提案という風にご理解を頂いていると思います。委員さんのおっし

やることは理解できない訳でもありませんが、あくまで受益者・利用者負担の原則というのは、必要な経費を利用者皆さんで負担をしていくということなので、低いところがあれば逆に大きくなる場所がないことには負担が満たされないこととなります。それを踏まえた中で、特別会計なので独立採算の中でやっていくべきところで、100%負担を頂けないかということで、今回7.5%諮問をさせていただきました。委員さんの意見には一部個人的に理解出来ますが、高いからそこを抑えて、低いところはそのままでは、いつまで経っても100%のレベルには到達できないと思います。

委員：課長さんの考え方ならば、人槽は取り払っても良いんじゃないですか。

副会長：それで良い。人数制で良いか。

事務局：人数のみですか。

事務局：現状の料金体系での認識で話したつもりですが、人槽を取り払うことにつきましては、今回の諮問では4年前の皆さんの議論を踏まえての料金体系なので、それを尊重し、現状の部分を100%に近づけるためにはどうしたら良いかという中で7.5%、委員さんのご意見のようにもっと傾斜を高くとか色々のご意見もありますが、均一的にすべての階層に7.5%を上積みした中でご負担を頂けないかと、それで、利用者皆さんで必要な経費を2回の改定で100%に持っていけないかということをご提案しています。

委員：行政としては、提案したままの方が良いんですね。しかし色々な意見を聞いて審議するのが審議会だから。

会長：具体的にどうしたいんですか。

委員：世帯員数別にするのが当然だという考え方が多いようなので、決まれば決まった意見には異議ありません。しかし話を聞いていけば、なんで人槽に分けているのか、前回の審議会で人数人槽、その考え方を踏まえて諮問している。そういう考え方ならば人槽は取り払うべきだと思います。今度の資料で月間維持費5人槽が5,362円と段階ごとにありますが、これだけの金額だけど、少ない世帯には安く、多い世帯には多くして、特別会計としてやっていきたいならば、7人槽であれ1人世帯、2人世帯の場合は金額が同じという考えならば、そうして良いんじゃないか。人槽別の意味がなくなるが。

副会長：事務局。記録はしているのか。

事務局：はい。

会長：皆さんにお聞きします。事務局の提案の通りで答申してよろしいでしょうか。事務局の意見はどうでしょうか。

委員：ただ事業所の値段はちょっと。安めで企業優遇じゃないのか。理由が分からない。そこは見直した方がいいのではないかな。

委員：料金については、皆さんがおっしゃるなら異議ありませんが、次回、出そうと思っていたが、料金算定において、赤ちゃんが生まれて翌月から大人なみに料金を徴収しているのではないかな。

事務局：はい。そうです。現状は1人として扱っています。

委員：最初の資料②で使用料算定の基本原則、自分の利用した量に応じてその原価に見合った額を支払う。これは受益者原則も考えないといけないと思います。赤ちゃんも使用料を成長に応じて賦課したらどうか。下水道は使用水量で公平だが、それが不明で人数制だから、乳幼児を大人なみに扱うのはいかななものか。市は子育て世代には支援しているが、これだけ何で大人なみにしているのか。変えた方が良いのでは。

事務局：これはご意見ということで良いですか。

委員：はい。

委員：委員さんの意見も分かりますが、泉町の場合は5年後は限界集落というのがほとんどなんです。1人世帯がほとんどなんです。むしろ少なくなることを前提に考えた方が良いのではないかな。現状で意見しても5年先、10年先は変わっているから。そういうのを考えて頂きたい。

会長：今日の資料の9ページ、10ページに、使用料収入が右肩下がりになっています。これは、人数が少なくなってきた。それと資本費が将来的には下がってくる。これは審議会を開いて料金を安くしましょうという議論になってくると思います。現時点では平成35年または37年で100%になるようにしますが、これが右肩下がりにどんどん下がれば、審議会で料金を設定すると思います。実は私が考えたのが、9ページの改定率7.5%です。その次に平成35年に7.4%になります。7.4%になるということはそれだけ人間が減る訳なんです。なので今回7.5%に上げた方が良くないかと思えます。確認しますが、決まったことは事務局が提案した人槽ごとに傾斜を付けた7.5%上げるということは皆さん納得して頂いたということよろしいですね。

各委員：はい。

会長：事業所については次回に資料が出るので、そこで議論しましょう。そういうことで、ここまではもう戻りませんので。何回も議論するのも大変です。事務局が提案した改定を認め、あとは資料③の6ページの事業所について。

委員：それと乳幼児の件。

事務局：乳幼児の件ですが、確かにし尿の量は少ないと認識していますが、大小はあるものの洗濯、お風呂などの排水も発生しています。そこを考慮した中で公共下水道も乳幼児や年齢に一切関係なく料金を設定しているので、そういう考え方は持っていません。

委員：わかりました。今後とも考える余地もないということですか。まあ、そこは良いです。

委員：タイミングの話ですが、来年消費税増税がありますが、タイミングをずらすことは可能でしょうか。最終目標の平成35年は決まっています、それに向かっているのは分かっているが、タイミングを考えることはありますか。

事務局：今回の改定時期は平成31年4月1日をお願いしているので、消費税が上がる時期まで待つて上げるとかは考えていません。税抜きの料金が変わる訳ではないので、そのような考えはありません。

委員：家庭の負担を考えたときに、消費税も上がる、料金も上がる。いずれにしる負担しないといけませんが、ショックを和らげる部分があると思います。

会長：貴重な意見を有難うございました。これはどうしようもありません。再度確認します。事務局が提案した今回の改定を認めるということで。来週は事業所のことを検討して、場合によっては市長に答申の内容を検討、4回目で最終答申を皆さんで合議をしてこれで行きましょうという話にしたいと思います。今回は農集についてほとんど議論していませんので、帰って前回の資料をきちんと見て頂いて、私たちはこれを認めたんだと認識してください。世の中には人槽制もあり人数制もある。非常に難しいですが、皆さんにご意見いただいて感謝しております。今日はこれで終わりたいと思います。

事務局：前回の付帯意見をお配りします。

会長：付帯意見というのは事務局にこういう努力をしてくださいなどと書かれた文書で、会が終わったら配布するので持ち帰って確認しておいてください。

事務局：次回の第3回審議会は9月27日木曜日になります。時間は午後2時、場所はここ、

東陽支所2階会議室になります。なお、東陽支所まで市役所から送迎を予定していますので希望される方は午後1時10分までに市役所守衛室前までよろしくお願ひします。

会長：長時間にわたる審議、お疲れ様でした。以上で本日の審議を終わります。